

# ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局  
VOL57 平成22年1月

# 迎

# 春



## 教育の花を咲かせたい

私の長年の思いは、とにかく充実した教育体制で職員を教育して、その職員が少しずつ自立し自ら勉強し、その知識を後輩に伝えるようになることでした。

ここで私が述べる教育とは、単に医療福祉関係者として必要な教育ではなく社会人としてきちんとした価値観、判断力、行動力をもった人間としての教育です。そのため、真誠会では教育体制の充実を掲げて取り組んできました。

そして開業して21年目の昨年、過去20年の努力が現実に職員の心身の成長そして、自立しなければならないという自覚が感じられるようになりました。また実際に看護、介護の現場での業務、サービスの提供の面でも見えるようになってきました。花にたとえるなら、栄養を与え管理していた花に20年目に蕾がつき、21年目で蕾の先に花びらの色が見え始めた頃といえるかもしれません。

真誠会の院長室の前には私の還暦を記念し桜の木(樹齢30年ぐらい)が植えてあります。院長室の窓から目先数十センチのところで桜を観察することができるのですが、数年前からよく観察していると、春に咲く桜の蕾は前の年の9月ごろからできかけております。本年1月になるとハッキリ蕾の形に成長しているのがわかります。

私はこの観察で事実を知るまでは、桜の蕾は2月ごろできはじめて4月に開花すると思っていました。春になると一斉に花を咲かせ日本中を花の国にして、一週間ほどで散ってゆく桜の花を準備するのに、約半年間かけて蕾が成長してゆくのはとても感動的です。

真誠会の教育も蕾ができるのに10年以上かかりました。最初の10年は蕾も出来ずひたすら根っこを成長させていたと思います。それが過去20年間の教育だったと思います。

人の教育には桜の花以上に長い間の蕾の期間があることは当然だと思います。

私は、後5年かけて真誠会の教育にさらに力を入れて、5年後に素晴らしいスタッフの花を、そして真誠会の花を咲かせたいと思っています。

院長室の前の桜に負けない花が咲けば私の理事長として、そして一企業のリーダーとして社会への還元が出来たことの証として、これ以上の喜びはありません。



社会福祉法人 真誠会  
医療法人 真誠会  
理事長 小田 貢

# 「新老人の会」鳥取支部フォーラム 日野原重明先生 記念講演会

平成 21 年 11 月 21 日 (土) 鳥取市のとりぎん文化会館 (梨花ホール) に日野原重明先生をお招きして、「新老人の会」鳥取支部フォーラム「日野原重明先生記念講演会」が開かれました。

当日は収容数 2000 人のホールが日野原先生のファンで満員になりました。

「さわやかに輝いて生きる秘訣」と題しての講演は日野原先生の経験談を含めて、高齢になっても輝いた生活を送る秘訣についてお話になりました。



日野原重明先生

その中で日野原先生は「現在、ミュージカル『葉っぱのフレディー』ニューヨーク公演の実現のため寄付を募集しています！」と参加者に呼びかけられました。講演会の最後に寄付金を募集したところ合計約 30 万円の寄付が集まりました。これは今回予定されているニューヨーク公演に対する寄付金では、今まで各地で行われた日野原先生の講演会の中で最も大きな額になるとのことです。鳥取市民の皆さんの日野原先生のご講演に対する感謝の気持ちと、ニューヨーク公演に向けての支援の気持ちがとても強かったことを表していると思います。

ニューヨークでの『葉っぱのフレディー』の公演の実現と成功を心からお祈りしたいと思います。



小田理事長より日野原先生へ  
寄付金が渡されました



約2000名のご来場者の皆さま

## 「新老人の会」鳥取支部フォーラム 日野原重明先生記念講演会

### ○オープニング

日野原 重明 詩・文  
いわさき ちひろ 絵  
「いのちのバトン」の中から、  
一部を朗読

朗 読：鳥取朗読の会  
八百谷 和子

八百谷和子さんによる  
「いのちのバトン」の朗読



### ○講 演 「さわやかに輝いて生きる秘訣」

講 師：聖路加国際病院理事長  
「新老人の会」会長 日野原 重明先生

### ○コンサート

合 唱：ハーナウ国際交流合唱団  
指 揮：平野 弘子  
ピ ア ノ：瀬川 則子



日野原先生の指揮のもと、皆さんで  
「ふるさと」を合唱しました

# 第5回 弓浜助け合いネットワーク(大崎)

## ～次世代を担う子どもたちへ伝えたいこと～

平成 21 年 11 月 29 日(日)、第 5 回弓浜助け合いネットワークが弓浜ホスピタウン(2000 年ホール)にて開催されました。

校区を越えて弓浜 6 校区全体のネットワークでシンポジウムを開催しています。最初は住民の皆さんの理解を得ることは容易ではありませんでしたが、回を重ねるごとに助け合いの意義、認知症に対する理解、認知症に対して私たちが備えなければいけないことに関する理解がかなり深まってきました。

今回は「次世代を担う子どもたちへ伝えたいこと」として子どもの高齢者への思いやりの心や、認知症に対する理解についてをテーマにしたシンポジウムでした。

和田小学校、弓ヶ浜小学校の先生それぞれ工夫された認知症に対する教育の実態についての発表は参加者に強い感銘を与えました。

特に、大篠津地区の認知症予防劇では出演者の熱演に参加者は引き込まれ、拍手喝さいでした。

今回のシンポジウムは今まで以上に住民の皆様主体であり、また学校における認知症教育の重要性と効果がはっきりしたものでした。今後このような活動をさらに発展させていきたいと思っております。将来に向けて 2008 年に行われた弓浜宣言が実現する可能性があることを強く示されたシンポジウムであったと思っております。

1. 私たちは認知症に対してやさしい街づくりをします
2. 私たちは認知症の予防と早期治療に取り組む街づくりをします
3. 私たちは認知症になっても安心して住める街づくりをします

次回 2010 年のテーマは未定ですが、さらに発展的なものになると期待されます。



大篠津地区「認知症を考える会」の皆さん、心温まる寸劇でした



こんなにたくさんの地域の方々がお集まりくださいました!



浦上先生、小田理事長、そしてパネリストの皆様です

### 意見発表

- 絵本『くしゃくしゃ笑顔とや・さ・し顔』朗読  
富益地区あいあいサロンスタッフ 徳本 博子氏
- 認知症絵本教室の取り組みについて  
和田小学校教諭 上根 香織氏
- 認知症予防劇『いつだってこころは生きている』  
大篠津地区「認知症を考える会」
- 総合教育「認知症啓発授業」の取り組みについて  
弓ヶ浜小学校教諭 井上 雄夫氏
- よなGO!GO!体操実演(米子市長寿社会課)

### 意見交換会

- 座長: 社会福祉法人真誠会  
NPO法人がいなネット理事長 小田 貢氏
- パネリスト: 弓ヶ浜小学校教諭 井上 雄夫氏  
和田小学校教諭 上根 香織氏  
グループホーム青松庵管理者 安田 博子氏  
米子市弓浜地域包括支援センター  
主任介護支援専門員 小坂 一氏
- 講評: 鳥取大学医学部保健学科教授 浦上 克哉氏



「よなGO!GO!体操」で体を動かしました!

# 生きる力と希望を吹き込むこと

医療法人 真誠会  
社会福祉法人 真誠会  
理事長 小田 貢

医師の仕事は説明するまでもなく、患者さんを診察して、診断し、薬を処方したり、時には手術によって患者さんを病気から救うことです。

そしてもう一つ大切なことは、患者さんの心を救うことです。

患者さんは多かれ少なかれ、罹患している臓器の病気だけでなく、心も傷つき、悩み、病んでいるのです。重篤な疾患、難病であればあるほど、先端医学の知識と技術を利用した医療が必要ですが、これら最先端の医療を駆使しても、必ずしも完璧に完治することを保証することはできません。あるいは完治に向かうにしても長い闘病生活では、患者さんの心はその厳しい治療過程でときに生きる希望を無くしたり、人間として大切な心の豊かさを失うこともあります。そのように肉体が病んでいる患者さんは、同時に心も病んでいくのです。

そのために医師の役割として忘れてはならないことは、患者さんの心情、苦しみを理解してあげることです。そして、苦しみを共有し、患者さんと一緒に乗り越えるという気持ちをもち、それを患者さんの心の中に吹き込むことです。別な表現としては、患者さんに生きていくエネルギーと希望を与えることです。内服や、手術という外からの治療だけではなく、患者さんの内面から支えることが大切です。

現在では、過去には想像もつかなかった最先端医療が進んできてはおります。しかし、現在でも多くの難病から人を完全に救うことはできませんし、将来的にも困難なことです。そしてどのように医学が発達しても結局人は死ぬ運命にあり、人が死ぬ前には必ず多くの苦しみが伴います。

今後もどのように医学が発達しても、医師が患者さんの心を内面から支えるという医療は永遠に、そしてさらに重要になってくると思います。私たち医師は知識、技術、医学の発展におごることなく、常に患者さんの苦しみとともに歩み励まし、患者さんの心に生きる希望と勇気を与え、患者さんを心から支える医療をしていきたいものです。

## 真誠会ホームヘルプアカデミー (ホームヘルパー2級養成講座)の実績

真誠会ホームヘルプアカデミーはすでに第5期となり、今までに合計60名の2級ホームヘルパーが誕生しました。

そして、その卒業生の約40%が真誠会に採用されています。真誠会ホームヘルプアカデミー卒業生は、すでに真誠会で講義、実習を受けているので、真誠会に就職しても早く職場になじんでよい仕事ができます。

これからも真誠会ホームヘルプアカデミーでは、質の高い講義、実習を提供し、質の高いホームヘルパーを世に送り出して行きます。

	〔受講者〕	〔真誠会採用者〕
1期	8名	3名
2期	14名	4名
3期	20名	7名
4期	12名	6名
5期	6名	5名
合計	60名	25名





# 医療福祉は安定地場産業



真誠会 理事長 小田 貢

サブプライムローン問題に端を発しアメリカの住宅バブル崩壊が起こり、2008年リーマン・ブラザーズは破綻しました。そのためにリーマン・ブラザーズに投資をしていた世界の企業が連鎖的に倒産し2009年それが世界的な経済危機に発展して行きました。

しかしながら、もともとこのサブプライムローンを冷静に考えるなら最終的には自壊するローンのババ抜きというか、ねずみ講的な性質のものだと私は思っています。資金がタブついている銀行、投資会社は次々に投資したのです。

日本もその例外ではなく、トップ企業のトヨタなどの自動車産業が大打撃を受け、またそのような企業を中心に大きな経済危機がひろがり、現在のデフレ、高い失業率となりました。しかしこのリーマンショックで大きな損失をしたのはもともとお金を儲けていた会社、あるいはお金持ちの投資家だったと思います。私のようなお金にゆとりのないものはもともと投資をしていないので、あまり影響がありませんでした。また米子などの地方都市も影響はありますが、トヨタ城下町の豊田市とか愛知県ほどの率で税収が少なくなつてはおりません。もちろん米子のような地方でも最終的には不景気の波は次第に大きく津波のように伝わってきております。

そのような中で医療福祉の経済は、国家の医療福祉政策によって決められているので、民主党政権の下で今後ある程度変わるかもしれませんが、診療報酬も、介護報酬もあまり変わらず、しがたがって職員を削減することもなくまた職員の給料を下げることもないと思います。それどころか職員の雇用の増加もあり得るのです。そのために鳥取県西部地区、なかんずく米子市のように医療福祉施設が多いところでは雇用が安定することで、医療福祉に関わる経済が米子市全体の経済を安定化させているのです。医療福祉は安定した地場産業なのです。

医療福祉の立場から直接的に住民の生活を守るだけでなく、雇用をも安定化し国からのお金を地域におとす装置でもあることと考えると、東京都に本店がある全国展開の大規模小売店が利益を地方から吸い上げて、東京の税収入になることよりはるかに経済効果があるかもしれません。不況の今こそ医療福祉業界は地域を支える安定地場産業と考えその重要性を再認識すべきだと思います。

## 新年のごあいさつ



看護介護統括部長  
森本 靖子

新年あけましておめでとうございます。

昨年は理事長の経営理念であります、全人的医療・介護の実践に絶対的価値のある心、思いやり、愛を改めて職員一人一人が胸に刻んだ年でした。

そして『提供するサービスの質の保証は、提供する人の質』の基、各職種のキャリアアップを積極的に展開しました。またBSC(バランス・スコアカード)を導入し、戦略の明確化、職員のコミュニケーションの促進、目標の共有化の促進などの効果も見出すことができるなど、足元を固めて大地を開墾し、種子を蒔き、平成22年への美しい開花につなげてまいりました。おかげさまで各種外部団体によるサービスの質評価の結果も大いに満足のあるものでした。

地域の皆様からは、貴重なご意見やご指導を承りましたことを、改めて御礼申し上げます。そして多くのボランティアの皆様のご厚情に感謝いたします。

昨年の1年間を締めくくる世相を表す漢字は『新』。新しい時代に期待したい・・・ということですが、長年にわたり育成された『愛と謙虚さのある健全な職場』が存在する限り、今後もさらに進化すると感じています。

今年は『千里を往って千里を帰る』のように変化する時代のニーズに対応できるように地域の皆様の信頼に大いに応えていけますように、勢いのある虎を志してまいります。職員一同自律と自責思考において研鑽し、精進してまいります。

今年もよろしくお願いたします。



# 辻田耳鼻咽喉科




辻田耳鼻咽喉科  
院長 辻田 哲朗

## フランス見聞録 (2)

### パリの治安

フランス見聞録の続きです。パリでは数日滞在しただけで、治安の悪さを実感しました。まず気づいたのが自動販売機がないことです。おそらく道端に自動販売機なんか置いてくとたちまち壊されて金や物を取られてしまうからでしょう。またコンビニも全く見かけませんでした。これは治安の悪さと言うより文化の違いでしょうが、自動販売機やコンビニに慣れてしまった日本人のボクにとっては、ちょっと飲み物を買うのも一苦労でした。また、ホテルの近くに小学校があったのですが見ていたら送り迎えは必ず親と一緒にでしたし、学校の入り口には厳重な門があり部外者が簡単に入れないようになっていました。それに比べて日本の治安がなんていいことか。それと怖い体験もしました。早朝のまだ夜が明けやらぬ頃、自転車のヴェリブに乗ってモンマルトルを一人で探検していたら、3名のかい黒人の兄ちゃんに絡まれて「おっさんよ。ちょっとばかし金貸してくれんかのお」とフランス語で言ってきました。(言葉はわからなかったのですが、間違いなくそんなニュアンスでした。)もう、怖くて怖くてフランス語で「ジュ・ヌ・コンプラン・パ」と何回も叫んで掴まれていた腕を振り切って全速力で後ろも振り向かず逃げました。アー、ホントにあの時は怖かった。身ぐるみ剥がされるかと思いました。ちなみに、ボクが言ったフランス語は「私、なにもわかりません」という意味でした。フランスの兄ちゃんたちに通じたかな。

### 夜のイルミネーション

パリでは夜になるとあちこちの建物が競い合ってイルミネーションで美しくライトアップされていました。パリの街全体が一斉になるもんだから壮観でした。掛け値なしに美しかったです。これを見るためだけにパリに来て決して損になりません。バスに乗ってコンコルド広場から始まりシャンゼリゼ通り、凱旋門、オペラ座、ノートルダム大聖堂、そしてエッフェル塔と巡り、昼間とはまた違ったパリを満喫できました。特にシャンゼリゼ通りとエッフェル塔はおすすめです。それにしても第2次世界大戦の時に誇り高きフランス人にとっては屈辱だったでしょうがヒトラーにパリの無血開城を許したのは正解でした。おかげで今もナポレオンの時から変わらない無傷のままのパリがありました。

### 美術館

パリの美術館に行くのも今回の大きな目的でしたが、時間がなかったのでルーブルとオルセー美術館だけにしました。ルーブルの印象です。世界中からの沢山の観光客がいて、しかも日本人が断トツに多かったです。別の日に世界遺産のモンサンミッシェルにも行きましたがそこも日本人が一杯で、それも殆ど女性でした。恐るべし日本女性。それと噂に聞いていましたがルーブルはとにかく広かった。まともに全部見るには1週間は必要です。そこを今回はわずか1時間余りで駆け足で回りました。当然、ミロのビーナスやモナリザなどのメインしか見れなかったのですが、それでも生のモナリザを見て、ちょうど長い間恋焦がれていた人に出会えたようでとても満足でした。他にもダ・ヴィンチの名画がそれとなく掛けてあったりして思わず通り過ぎてしまいそうになりました。それこそ他の美術館では1枚だけでも主役を張れるような名画がゴロゴロありました。フランス人の芸術に対する執念には脱帽です。よくぞこれだけ集めたものです。次ぎにオルセーです。ここにはゴッホ、ミレー、ルノアール、モネなどの印象派の絵が所狭しと置いてありボクにとっては一度生で見たかったものばかりで、とても満足でした。ここも1時間ほどしか居れなかったのですが、できれば1日中でも居たかったです。

ボクにとっては初めてのヨーロッパ、初めてのフランスでした。旅行の3カ月前からフランス語を特訓したため、英語とフランス語のちゃんぽんでも十分コミュニケーションがとれて、会話には全然困りませんでした。今回は掛け足で回ってしまいましたが、今度はもう少しゆったりとした気分で行ってみたいです。



オルセー美術館にて

# いえはら歯科



いえはら歯科  
院長 家原 猛

## '10 新年のご挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

一昨年末は米国発の 100 年に 1 度と言われた世界同時不況に日本経済も大打撃を受け、東京都の日比谷公園に「年越し派遣村」が設けられるなど、多くの労働者にとっても大変な年の瀬でした。そして昨年 8 月の総選挙では、長く続いた自民党を中心とした政権から民主党を第 1 党とする政権へと初の政権交代が実現しました。構造改革・財政改革を謳い続けるも、これまででは成しえなかった抜本的な改革を、鳩山新政権は成し得るのでしょうか。これまでの長い政権下での組織や予算の硬直・閉塞あるいは肥大化した部分に大鉈を振るって、整理して欲しいものだと思います。国家戦略室、行政刷新会議、政治家主導・脱官僚依存、公開で行われた各省庁予算の事業仕分け等、これまでとは一味も二味も違うやり方に大きな期待を感じています。変革ですから当然幾多の抵抗・困難があろうと思います。しかし政治はハートでするものだと思います。「コンクリートから人へ」、生活者重視、そして「友愛」を掲げる政治信条に期待したいと思います。格差社会、地域格差とか言われて地方の経済はますます厳しさを増しているようです。中国を中心とする人件費の安い東南アジア諸国が世界の工場になり、いわゆるデフレ・スパイラルでしょうか。日本人にとってはまさに人間疎外です。物作りの精神、受け継がれた技術がきちんと評価されなければならない。物も大事にされなければならない。経済の需給バランスが崩れていると思います。ガソリン車から電気自動車に代表されるような環境重視の新たな産業構造・生活様式への転換は、とても大事なことだと思います。自然に悪い影響を与えない商品、そして物作り。元来、自然を愛す日本人が最も長けた才能で得意なところだと思います。世界に冠たる日本の文化・技術は、大きな観光資源でもあります。日本の将来はきっと明るい。良くなっていくはず。そう、思いたい。

今年が皆様にとっても、幸多き年でありますように。本年もよろしくお願い致します。

### アネックス玄関前にカーポート設置

長年の悲願であった、真誠会アネックス（透析施設オアシス・通所リハビリテーション真誠会）の車寄せ（カーポート）が完成しました。

大型の送迎車もすっぽり入る大きさの車寄せですので、オアシス、デイケアをご利用の皆さんも雨風にさらされることなく安心して車から乗り降りできるようになり、利用者もスタッフも共に大喜びです。

昨年 11 月末からは夜になると、このカーポートに LED のイルミネーションが点灯されます。LED の灯りはとてもきれいで、まるでおとぎの国の入り口のように見る者を引き付けます。

また昨年 10 月に真誠会前駐車場が整備されたおかげで、送迎車の運行がとてもスムーズになりました。



カーポートから送迎車が  
出発します！

# 各施設長より新年のごあいさつ



介護老人保健施設  
弓浜ゆうとぴあ 施設長  
**五明田 孝**

## 坂の上の雲を目指して

皆様明けましておめでとうございます。今年も宜しく願い申し上げます。

待望久しい司馬遼太郎原作“坂の上の雲”が放映され大変楽しみにしています。グローバル化社会の中で国の進むべき道が必ずしも明確に出せずもやもやした時期、明治の若者が新しい時代を切り開くべく、真っ直ぐに坂の上の雲を目指して苦闘したあの生き生きとした時代を羨ましく、又生きるヒントさえ与えてくれるように思えます。

真誠会は理事長指導のもとに、オンリーワンのナンバーワンを目指して色々な面でチャレンジを続けています。昨年はチェンジの年で政権も交代し、色々な面で旧いいきりからの脱却が図られ国民は大いに期待しています。ところが事業仕分け人が世界のナンバーワンを目指す必要はなく2番、3番で良いとして夢のある科学

技術予算をパッサリと切り捨てたのには大変驚愕し憤りさえ覚えました。それで良いのですか？ 経済状況の厳しい今年、皆様と一丸となって坂の上の雲を目指して頑張りましょう。



介護老人保健施設  
ゆうとぴあ 施設長  
**中下 英之助**

## インフルエンザと感染ネットワーク

平成 21 年の春にメキシコから始まった、新型インフルエンザは世界中に拡大しており、わが国でも大都市中心から、次第に地方都市にも拡大してきました。新型インフルエンザの全貌も次第に明らかになり、感染力は季節性インフルエンザの 2 倍以上と高いです。臨床症状は季節性に類似していますが、一部の患者で肺炎を起こし、重症化することがあります。

感染症に際して、従来はウイルスなど病原菌の対策が主でしたが、現在は宿主側の要因、感染経路などの社会環境も検討が必要です。病原体の侵入に対する防衛戦であるとの見方も出来ます。社会生活では地域ネットをはじめとして各種の人間関係によりつながったネットワークを形成しております。人間関係を通して流行するインフルエンザなどの感染症の伝播する速度はネットワークの形に大きく影響されます。これはスモールワールド（小さい世界）と称される様に、高速鉄道や航空機という高速輸送手段により

短期間で世界各地に到達可能となりました。国内航空路線では、羽田空港が国内一のハブ空港とよばれる様に、大都市への一極集中をきたし、スケールフリー（尺度のない）・ネットワークを形成しています。

わが国の新型インフルエンザ対策は、成田など国内 4 空港で国際便の機内検疫などパニック映画さながらの検疫体勢で望みましたが、防衛網を潜り抜けて国内発生が関西地区の海外旅行帰りの高校生間で起こりました。感染は大都市圏から地方都市に拡大して、当地区でも周辺の学校を中心に蔓延してきました。大規模な検疫体制は、感染の進行速度は遅らせましたが、侵入防止面では無効でした。11 月末より新型インフルエンザの予防接種が始まり、医療・介護従事者、透析患者、基礎疾患ある入所者の順に施行しており、強力な援軍を得た状況です。感染予防の方策は集団接種が理想ですが、現実的ではなく施設職員、入所者と家族間の強いリンク（環）のもとに、感染情報の共有と感染予防のために手洗い、うがい、マスクなどの自己管理によりこの難局を乗り切りたいものです。

今年もよろしく申し上げます



## 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

寅年の新春のご挨拶を申し上げさせていただきます。

昨年の夏はいつまでも梅雨の明けない冷夏であったり、集中豪雨による洪水や山口県防府市での特別養護老人ホームを直撃した山からの土石流で多くの尊い生命が失われるなど大きな災害が発生しました。これらは地球の温暖化によるものでしょうか。

私達は、快適な日常生活を送るために電気を消費し、意識しないまま多量の温室効果ガスの排出に関与しておりますが、事業所において、また家庭において電力の消費を減らす努力は欠かせないところです。

私は、不用の電気を切らない孫たちに毎日のように口やかましく注意しておりますが、うるさい爺だと思っていることでしょう。

今年は自然災害もなく景気も回復して、明るいニュースが多く聞けることを念じてご挨拶とさせていただきます。



介護老人福祉施設  
ピースポート 施設長  
**藤本 昌弘**



# 第14回 ホスピタウン交流会 in 米子

平成 21 年 10 月 24 日(土)、25 日(日) の 2 日間、米子ホスピタウンで第 14 回ホスピタウン交流会が開かれました。

これは 14 年前から熊本市のにしくまもと病院を中心とした「熊本ホスピタウン」、「真星病院」で持ち回りで行っている情報交換、親睦の会です。

今回はにしくまもと病院から林茂病院長、神戸市にあります真星病院から大石麻利子病院長が参加されました。

1 日目は、荒神神楽太鼓保存会の皆様による太鼓の演奏でオープニングを飾っていただきました。そして、「病院の現状と将来の展開」と題して林先生と大石先生に発表をしていただきました。

次に、小田理事長が「二年間の歩みとこれからー前門の虎、後門の狼ー」と題して講演を行いました。

最後に、真誠会の取り組みとして「弓浜地域における認知症の予防・啓発活動」をはじめ、真誠会の事業及びケアの実際について 9 名の職員が発表しました。

2 日目は、米子ホスピタウンの施設見学をしていただきました。施設見学の後は、大山を散策しゆっくりきれいな紅葉を楽しんでいただき、交流会は幕を閉じました。



にしくまもと病院  
病院長  
林 茂 先生



真星病院  
病院長  
大石 麻利子 先生



ホスピタウンの仲間です!

## ①発表

「病院の現状と将来の展開」

..... にしくまもと病院 病院長 林 茂先生  
..... 真星病院 病院長 大石麻利子先生

## ②講演

「二年間の歩みとこれからー前門の虎、後門の狼ー」

..... 医療法人・社会福祉法人真誠会 小田 貢理事長

## ③職員発表

(1)「弓浜地域における認知症の予防・啓発活動～認知症予防教室事業と弓浜助け合いネットワークの取り組み～」

..... 米子市弓浜地域包括支援センター管理者 小坂 一

(2) 真誠会の事業及びケアの実際

- 「真誠会グループの特徴」..... 業務支援本部 課長 前田 浩寿
  - 「循環する介護サービスの実際」..... 医療福祉連携センター 副センター長 小山 雅美
  - 「介護老人保健施設の役割と評価」..... 介護老人保健施設ゆうとびあ 看護師長 村上 信子
  - 「認知症短期集中リハビリテーションの実際」..... リハビリテーション課 課長 大西 博巳
  - 「通所介護サービスの実際と評価」..... 通所リハビリテーション真誠会 看護師長 佐平登志美
  - 「口腔機能向上の取組み～誤嚥性肺炎予防に向けて」... 介護老人保健施設ゆうとびあ 看護師長代理 南 悦子
  - 「透析室オアシスにおけるフットケアの取組み」..... 透析施設オアシス 看護師長 北尾 仁
- まとめ「真誠会の人材育成の取組み」..... 真誠会看護介護統括部長 森本 靖子

## 健康クラブ ウォーキングイベント開催!

健康クラブでは昨年春、桜の季節に緑水湖でウォーキング、新緑の季節には大山寺のご住職よりの法話聴講、秋の紅葉の季節には大山ウォーキングと四季折々楽しみながらイベントを開催させて頂き、たくさんの方にご参加とご協力をして頂きました。

平成 21 年 11 月 5 日に開催した秋の健康クラブウォーキングイベントでは、秋晴れの清々しい空気の中、大山の紅葉を楽しみながら 3 キロのウォーキングをしました。身体を動かした後は皆さんと一緒に大山ロイヤルホテルでの昼食弁当に舌鼓!心地良い運動に美味しい食事、これが健康づくりには一番ですね。

今年もまた、皆様と一緒に様々な趣向を凝らしたイベントを計画していきたいと考えています。健康クラブのご利用者様だけでなく、このホスピタウン便りをご覧の皆様どなたでもご参加お待ちしております。是非、私達と一緒に健康クラブで身体を動かしてみませんか!

運動のあとのごちそうは格別!(緑水湖にて)



大自然のきれいな空気の中でハイ!チーズ!(大山にて)





## ゴスペルオーブクリスマスコンサートinゆうとぴあ (河崎)

平成 21 年 12 月 3 日、ゴスペルオーブの皆さんによるクリスマスコンサートが介護老人保健施設ゆうとぴあで開かれました。ゴスペルオーブさんは山陰のみならず、東京、山形などでもコンサートをされとても活躍されているグループです。クリスマスシーズンの特に忙しい時期にボランティアとしてお越しいただき、心を込めてきれいな歌声を届けてくださいました。

クリスマスソングに皆さんノリノリでした♪



オーブの皆さんと小田理事長



まずはじめに、クリスマスソングを歌っていただきました。その後、「荒城の月」や「ひょっこりひょうたん島」、「川の流れるように」など昔懐かしい曲も披露してください、入所者さんも一緒に口ずさんでおられました。昔を思い出し涙を流される方、普段はあまり表現されない方がリズムをとって笑顔で手拍子をされたりなど、入所者さんの心に歌声が響き渡り、皆さんが感動しておられました。

職員もサンタクロースやトナカイの衣装を身につけ、入所者さんにもサンタクロースの帽子をかぶってもらいクリスマスカラー一色になりました。入所者さんにとってすてきなクリスマスプレゼントになったと思います。

ゴスペルオーブの皆さん、すばらしい歌声を本当にありがとうございました♪



## 傾聴ボランティアを通じて

童謡の里に隔週水曜日 13 時 30 分～15 時 30 分の間、傾聴ボランティアに来て頂いています岡田浩様をご紹介させていただきます。岡田様は、「よなご傾聴しあわせの会」の代表をされており、4 人のメンバーで各施設を訪問され傾聴ボランティア活動をされています。童謡の里もほぼ開所当時からお世話になっています。

照れてしまって、話せませんわ〜 (右側：岡田浩さん)



岡田様は、人柄も良くいつも笑顔を絶やさず、とても丁寧にご利用者様に接して下さっています。ご利用者様からの評判も良く、職員の一員の様な存在であり職員一同とても感謝しております。

ご利用者様も傾聴ボランティアに来て頂く事で、自分の思いをしっかりと伝える事の喜びや、過去を振り返り昔の良き時代を回想する事で表情も良くなり、とても有意義な時間を過ごされておられます。これからも多方面で活躍される事と思いますが、今後とも童謡の里を宜しくお願い致します。



## 誕生会

平成 21 年 10 月 28 日弓浜ゆうとぴあにて誕生会を開催しました。ご家族の方にもご出席いただき、誕生月の入所者さんを盛大にお祝いしました。ボランティアとして河崎長寿会さんがお越しくださり、銭太鼓を披露していただきました。また、入所者さんによるカラオケ、スタッフからのお祝いメッセージもあり大変盛り上がりしました。中には感激して涙を流される方もいらっしゃるほどでした。今後もスタッフ一同で工夫をしながら、入所者さん、ご家族の方に喜んでいただけるレクリエーションを提供できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

皆さんで誕生月の方のお祝いをしました♪



河崎長寿会さんによる銭太鼓の披露



## 第15回米子ホスピタウン真誠会文化展 (河崎)

平成 21 年 10 月 29 日～11 月 4 日、毎年恒例の「米子ホスピタウン真誠会文化展」が開催されました。趣味を生かした絵や手芸、フラワーアレンジメントなど皆さんが出展して下さった作品が多く展示され、ゆうとぴあ広場が秋色に染まりました。

オープニングセレモニーでは小田理事長をはじめ、ゆうとぴあの利用者さん、河崎小学校の生徒さんにも参加していただきテープカットをし、にぎやかに文化展が開始しました。河崎小学校 3 年生の子ども達による合唱の披露もあり、利用者さんにはこやかに聞いておられ「みんな、すてきな歌声をありがとう!」と感激しておられました。

セレモニーの後は子ども達に手を引かれ作品をご覧いただきましたが、小さな手をぎゅっと握って一緒に歩く姿はとても微笑ましい一幕でした。

米子ホスピタウン真誠会文化展のはじまりです!!



河崎小学校 3 年生による合唱♪



## 第8回弓浜ホスピタウンふれあい文化祭 (大崎)

崎津小学校の皆さん、台奏がとても上手でした☆



平成 21 年 11 月 19 日～11 月 25 日、弓浜ホスピタウンにて「第 8 回弓浜ホスピタウンふれあい文化祭」が開催されました。初日にはオープニングセレモニーが開かれ、たくさんの利用者さんが参加されました。崎津小学校の子ども達の歌や台奏を熱心に聴かれ、終始和やかなムードでした。その後には子ども達に車椅子を押してもらったり、手をつなぎながら作品を見て回られ、子ども達とのコミュニケーションを図り

とても喜ばれていました。皆さんの表情がとても良く、いつも以上の笑顔を引き出すことができました。

利用者さん、ご家族の方、地域の方、職員から集められた展示作品を見て、感動しておられる姿も見られました。「来年は私もこういうのが作りたいなあ～!」と来年の文化展に向けての意欲を出しておられる方もいらっしゃいました。来年もたくさんの出展をお待ちしております!



かわいい子どもたちに車椅子を押してもらって、とってもいい笑顔です^-^



## 第3回地域交流・ふる里まつり

### 「地域との繋がり」を深め広げるメッセージ (和田)

地元自治会及び地域ボランティアの皆様方と 2 ヶ月前より念入りに打合せを重ねて準備した「地域交流・ふる里まつり」は、平成 21 年 10 月 10 日(土) 天候にも恵まれ、勇壮な和田荒神子ども太鼓の迫力ある演奏のオープニングで始まりました。

会場のふる里前広場は、浜名物ののこめし・金魚掬い・たこ焼き・バザー等の出店が立ち並び、各地域の皆さま方の来場で溢れるばかりでした。

特に、「浜名物ののこめし」は、行列ができるほどの大人気で開店と同時に完売となりました。

演芸では、地域子ども会の銭太鼓・よさこい踊り・傘踊りや各地域の方々の方々の歌・踊り等の熱演ステージに、会場から拍手喝采で祭りも最高潮となりました。

ご利用者様と地域との交流イベント「ふる里まつり」は、さらに地域との繋がりを深め広げるための、熱いメッセージとして発信、継続していきたいと思っております。地域の皆さまのご支援とご協力ありがとうございました。

バザーが大賑わいです!



小さな子どもたちが、大きな太鼓を演奏してくれました♪



サテライト真誠会  
総合通所介護事業

# 真誠会ローズガーデン

人の心に花を咲かせたい。  
人生の花を咲かせて欲しい。  
人生で一番大きな花を咲かせて欲しい。  
米子の街の真ん中に花を咲かせたい。



今春  
オープン



現 地 鳥取県米子市富士見町 6 番地

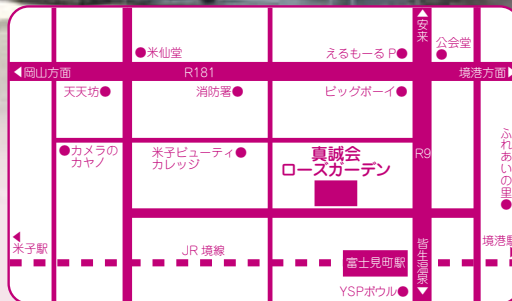
営業日  
月曜～土曜

お問い合わせ



医療法人 真誠会 鳥取県米子市河崎580

TEL.0859-24-5666



鳥取県  
保険医新聞新年号  
に掲載されました!

## 鳥取保険医新聞

2010年1月15日 (月) 1回発行

発行所  
鳥取県保険医協会  
〒683-0803 米子市河崎2番地  
TEL 0859-24-3003  
FAX 0859-24-3006  
E-mail: info@tdkai.or.jp

発行人 杉本 勉  
(定価一部 200円)



「古郡の一角」

京都へ行ったとき、急に20年ぶりぐらいに奈良へ行きたくなり、すぐに奈良に向かい行って奈良へ行きました。東大寺の門前通りには無数の鹿がいて、その中の二頭は気持がよくなりました。凍りついた若い鹿に凍った若い鹿に愛情をよせる母親の風景です。ちなみに、東大寺は平安遷都(1068年)で、この鹿の角の長によって種別判定になるでしょう。

撮影 医療法人 真誠会 理事長 小田 貴

